

新聞を読んで学力を身に付けよう

— NIE (Newspaper In Education 新聞を教育へ) 週間によせて —

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
2. 明日の2012年12月16日は衆議院議員総選挙の投票日ですので、有権者の皆様は投票をお願いいたします。有権者として一番大切な公民としての義務は、投票場に行って今後の国の政治を任せたい方に投票することだと思います。棄権することのないようにどうかよろしくお祈いします。明日忙しい方は、今日今からでも不在者投票ができますので、ぜひ不在者投票を済ませていただければと思います。
3. さて、開倫塾は、栃木県・群馬県・茨城県に全部で65校舎ある学習塾で、約7000名ぐらいの皆さんが学んでいます。私は、1979年に塾を創業以来ずっと、子どもたちが自分で考える力・批判的思考能力を養成するのに一番よいのは新聞を読むことだと考えてきました。そこで、「新聞を教育へ」という取り組みをしています。特に11月は、英語で言うとNIE (Newspaper In Education, 新聞を教育へ) 活動を一所懸命に行い、小学生・中学生・高校生の塾生の皆さんに新聞の読み方を指導したり、気になる記事を見せて感想を書かせたりしています。塾生の皆さんは1週間に1回か2回しか開倫塾に来ませんが、たとえ1週間に1～2回でもNIEの活動を行っている、新聞を読む習慣が身に付きます。そして、世の中ではどんなことが起こっているのか・どのような考えがあるのか・世界にはどのような国があってどんな問題や課題を抱えているのかなどに気づくようになります。新聞を読むことはとてもよい勉強になりますので、ずっと続けています。先程もお話したように、11月は(新聞を教育へ)活動月間でしたので、特に力を入れてやらせていただきました。取り組みが優秀な方は表彰もしました。
4. では、新聞は何年生ぐらいから読むとよいのでしょうか。私は足利市に生まれ育ち、足利市立山辺小学校に通いました。小学校3年生と4年生のときのクラス担任であった岡典子先生から、「小学生でも新聞を読むことができるので、お父さんとお母さんが読み終わったら読ませてもらいなさい」と指導していただきました。それはおそらく4年生のときだったと思いますが、それ以来先生の教えを守って、両親が読み終えたあとの新聞、その当時私の家で取っていた毎日新聞を読ませてもらっていました。難しいので、最初は読めるページがなかなかありませんでしたが、天気予報・ラジオ番組・テレビ番組(昔はテレビはあまりなかったのですが)などはわかりやすく、また、投書欄などは子どもでも読めましたので、興味深く読みました。

5. 中学生・高校生になると、学校の図書室に自分の家で取っていない新聞が置いてありましたので、それを読ませてもらいました。それで、世の中には自分の家で取っていない新聞もあることがわかりました。さらに、大学に行ってから大学の図書館にある新聞のコーナーを利用しました。大学の新聞のコーナーは、私にとって素晴らしいコーナーでした。先日の日曜日にも東京のお茶の水にある明治大学の図書館に行って勉強したのですが、そこには世界中・日本国中の新聞が置いてありました。このように、大学の図書館や大きな図書館では普段取っていない新聞も読むことができ、世の中のことがいろいろとわかります。
6. 次に、開倫塾に来ている塾生たちの中で新聞を読んでいる子はどのくらいの成績を取っているのかをお話します。これはデータがありますので、はっきりとわかります。新聞を毎日、丹念に読んでいる塾生の成績はかなりよいようです。新しい文章を毎日、毎日読みますので、好奇心が旺盛になります。各科目を勉強する意味がわかり、読解力の基礎もつきます。勉強する理由や世の中のことがたくさんわかってきますので、成績がよくなるのだと思います。
7. また、皆さんもご承知と思いますが、入学試験の問題文は合計すればとても長いのです。1月には、大学入試センター試験があり、栃木県・群馬県・茨城県では私立高校の入学試験もたくさん行われます。そして、2月になると多くの大学で一般入試が実施されます。高校も大学も入学試験の問題の分量は莫大です。初めて読む莫大な量の文章を短い時間で読んで、正解を出さなければなりません。これは、高校入試も同じです。また、私立中学校の入学試験でも、国語だけでなく、理科も社会も算数も長い文章をたくさん読んで、問題文に適した正解を出さなければならないのです。初めて目にする長い文章をきちんと読む能力をつけるには、新聞が一番よいのではないかとさえ私は思います。それが、成績がよくなること、学力向上に繋がるからです。
8. 明後日以降の新聞には、明日の総選挙の結果や、新しい政権の記事が載ると思います。また、新しい政権はどのような政策を打ち出すのか、それに対して野党はどのように考えるのかなども含めて、非常にたくさんの報道が出てくると思います。さらに、12月と1月は年の終わりと初めて、年末・年始の素晴らしい特集記事が連日のように組まれますので、新聞をしっかりと読んで力をつけていただきたいと思います。どうかお近くのお子さんにも新聞を読むようにお勧めください。よろしく願いいたします。

— 2013年5月10日加筆・訂正、林明夫記 —